

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総括研究報告書

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究代表者 田村和夫
福岡大学医学部 総合医学研究センター 教授

研究分担者 相羽恵介
東京慈恵会医科大学 客員教授

研究分担者 齊藤光江
順天堂大学医学部 教授

研究分担者 佐伯俊昭
埼玉医科大学国際医療センター 乳腺腫瘍科 教授

研究分担者 唐澤久美子
東京女子医科大学医学部 放射線腫瘍学 教授

研究分担者 内富庸介
国立がん研究センター中央病院 支持療法開発部門 部門長

研究分担者 高橋孝郎
埼玉医科大学国際医療センター 緩和医療科 教授

研究分担者 海堀昌樹
関西医科大学医学部 外科学講座 診療教授

研究分担者 作田裕美
大阪市立大学大学院 看護学研究科 教授

研究分担者 今村知世
慶應義塾大学医学部 講師

研究分担者 辻 哲也
慶應義塾大学医学部 准教授

研究分担者 長島文夫
杏林大学医学部 内科学腫瘍科 教授

研究分担者 小寺康弘
名古屋大学大学院医学系研究科 教授
(研究協力者 田中千恵)

研究分担者 安藤雄一
名古屋大学医学部附属病院 化学療法部 教授
(研究協力者 松岡歩)

研究分担者 中山健夫
京都大学大学院医学研究科 教授

研究分担者 小川朝生
国立研究開発法人国立がん研究センター先端医療開発センター
精神腫瘍学開発分野 分野長

研究分担者 濱口哲弥
埼玉医科大学国際医療センター 医学部消化器腫瘍科 教授

研究分担者 水谷友紀
国立研究開発法人国立がん研究センター
臨床研究支援部門データ管理部 外来研究員

研究分担者 津端由佳里
島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 講師

研究分担者 高橋昌宏
国立大学法人東北大学加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野 助教

研究要旨

本研究の目的は、高齢者がん診療の指針策定にあたって作成・周知・改訂が継続して実施できる基盤整備をすることである。そのために、次の5つのプロジェクトを計画し実施している。

- ① 高齢者がん医療に関する教育・研究ならびに診療の実態を知ること。
- ② 高齢者のがん診療に関するエビデンスや情報を集積し、Q&Aの形で整理すること。
- ③ 高齢者がん診療の指針策定にあたって作成・周知・改訂が継続して実施できる多領域、多職種がかかわるプラットフォームを形成すること
- ④ 高齢者がん医療のプロフェッショナルを育成すること。
- ⑤ 高齢者がん診療指針を用意し、がん関連学会が作成する各がん種における診療指針の中で、高齢者の項を作成にあたっての指針とする。

A. 研究目的

高齢がん患者の診療にあたっては、加齢に伴う心身の機能の低下、すなわち身体的な脆弱性（ADL 低下）、精神・神経（認知障害）ならびに情動障害（うつ）、さらに社会・経済的な側面まで検討したうえで、診療方針が決定されなければならない。そのためには患者の包括的な評価とそれに基づく医療の実践に資する指針を必要とする。

本研究では、これに応える臓器横断的かつ職種横断的な体制を構築し、指針策定にあたって作成・周知・改訂が継続して実施できる基盤整備をすることである。そのために、次の5つのプロジェクトを計画し実施している。

（1）高齢者がん医療に関する教育・研究ならびに診療の実態を知る。

（2）高齢者がん診療に関するエビデンスや情報を集積し、Q&Aの形で整理する。

（3）高齢者がん診療の指針策定にあたって作成・周知・改訂が継続して実施できる多領域、多職種がかかわるプラットフォームを形成する。

（4）高齢者がん医療のプロフェッショナルを育成する。

（5）高齢者がん診療指針を作成するためのガイドラインを作成する。

B. 研究方法

（1）日本は高齢社会になって久しいが、医学教育・研究・診療において、我々医療界がタイムリーにできてきたかを調査する。まず、卒前（医学部）教育において、老年

医学、老年腫瘍学の教育が系統だっで行われているか、また、医学研究科（大学院）教育においてこれらの専門的な教育・研究が行われているかをアンケート方式で調査した。さらに地域がん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）において高齢者を対象とした診療科の設置、専門医、専門スタッフの配置がなされているかを調査し、老年腫瘍科についても同様の調査をした。

（2）エビデンスの少ない高齢者がん医療であるが、診療にあたって高齢者機能評価、外科治療、薬物療法、放射線療法、支持・緩和医療について、また検診ならびに社会・経済的な課題をできるだけ客観的に情報を収集・整理し、各領域のエキスパートに依頼しQ&A方式で執筆している。

（3）本研究班をサポートし、高齢者がん診療の指針策定にあたって作成・周知・改訂が継続して実施できるがん関連学会・団体、老年医学会がかかわる高齢者がん医療協議会（コンソーシアム）を設置する。

（4）Q&Aの作成、協議会による研修会や公開討論会を通して高齢者がん医療のプロフェッショナルを育成する。

（5）「高齢者がん診療指針」を用意し、がん関連学会が作成する各がん種における診療指針の中で、高齢者の項を作成にあたってのガイドとする。

C. 研究結果

（1）高齢者がん医療の教育・研究・診療の実態（資料1）

・81の大学医学部長宛てにアンケートを郵

送し 48 (59%) 医学部より回答を得た。老年医学講座があるのは 14 校 (29%)、老年医学の系統だった教育が実施されているのは 23 校 (48%)、老年腫瘍学を系統だって教育する講座あるいは部門を持つのはわずか 3 校 (6%) であった。

- ・医学研究科において高齢者がん医療に関する研究を行っているのは 2 校 (5%) であった

- ・全国、都道府県ならびに地域がん診療連携拠点病院 437 施設のうち 151 (34.6%) 施設から回答を得た。老年科を設置している施設が 3%、老年病専門医が配属されている施設は 13% であった。一方、老年腫瘍科を設置している病院は皆無であった。

(2) 高齢者がん医療 Q&A (資料 2)

高齢者がん医療に関する前向き臨床試験は極めて少なく、質の高いエビデンスが創出されてこなかった。そこで、多領域、多職種からなる班員ならびに協力者が中心となって、各領域のエキスパートに依頼し、これまでに得られた情報を整理し Q&A の形でまとめた。総論部分として、

序章：高齢者がん診療の基本的な考え方

第 1 章：高齢者がんの特徴と評価

第 2 章：内科系治療総論

第 3 章：支持・緩和医療

第 4 章：外科系治療

第 5 章：放射線治療

第 6 章：精神科的治療

第 7 章：高齢がん患者の社会・経済的サポートケア

第 8 章：高齢者の臨床薬理

の章立てを行い、これらを各領域の専門家による査読後、public comments を得るために HP に掲載し、コメントに対する執筆者の修正、編集委員によるチェックを得て最終版が完成した。

(3) 高齢者がん医療協議会 (コンソーシアム) [英文名: Japanese Association of Geriatric Oncology, JAGO] の設立。

- ・2019 年 1 月 19 日: 班員、25 のがん関連学会、老年医学会、対がん協会、患者団体の協力を得て設立。23 の団体から委員が選任され協議会を設立した。業務としては基本的には本研究班を支援することである。ただ、多領域・多職種から成る協議会を機能的に運営していくには、これから老年医学をリードしていく専門家からなる運営委員を指名し運営委員会を設置した。(資料 3-1)。2018 年度の活動として研修会と公開討論会を実施し、第 1 回運営委員会を開催した。

- ・2019 年 2 月 16 日: 高齢者がん医療 Q&A 執筆者、班員を対象に研修会として「高齢者がん医療を考える会議 1: 高齢者がん診療方針を立てるにあたって PS と年齢だけでよいか？」を開催した 76 人の参加者を得て、高齢者の基礎と臨床、高齢者がん診療、とくに機能評価の重要性について学んだ (資料 3-2)。

- ・2019 年 3 月 3 日: 協議会運営委員会を開催し、協議会を円滑に運営するために、6 人の運営委員が選任され運営委員会を開催し、今後の協議会の運営について協議した。

(資料 3-3)

・2019年3月16日、「高齢者のがん医療を考える会議 2：高齢者がん医療に関する公開討論会」では、医療者ばかりでなく、患者・家族、一般市民、マスコミの参加を得て、高齢のがん医療の現状と課題について議論した。82名の参加者を得て、13の質問をあらかじめ用意し、参加者の回答とパネリストによる解説ののち議論した。(資料 3-4)

・高齢者がん医療協議会外科委員会の設置。協議会設立時、外科系学会代表の複数の委員から、高齢者のがん診療についてのこれまでの議論が、内科系が中心で行われてきたことが指摘された。外科治療に関しては、術前の患者評価、麻酔を含む周術期の問題、さらに術後早期、中長期について課題が多くあり、メール会議の結果、協議会の外科系委員による外科委員会が設置されることが決定された。

(4) 老年腫瘍学の基礎・臨床専門家の育成は喫緊の課題であり、本研究班の事業はすべて高齢者のがん医療に精通する医療者の育成を担っている。高齢者のがん医療 Q&A の執筆者は若手の腫瘍医で、がんはすでに高齢者の慢性疾患であることから、多くの高齢のがん患者を日常の診療の中で診ている。しかし、資料 1 にもあるように、高齢という切り口から教育を受ける機会が少なく、また臨床研究に携わる機会はほとんどない。したがって、多くの執筆者ははじめて高齢がん患者の診療をテーマに review

を行い、得られた情報をまとめ、解析して執筆している。2月16日の研修会は、班員はもとより Q&A の執筆者の研修を兼ねており参加者から大変勉強になったとの評価を受けている(資料 4)。参加できなかった執筆者には、当日のビデオをネットで配信した。

(5) 「高齢がん患者の診療指針」の作成(資料 5)。

計 5 回の会議(ネット会議を含めて)を開催し、海外のガイドライン(NCCN や ASCO 等)の総論部分も参考に、日本における高齢者のがん診療の考え方について議論した「高齢がん患者の診療指針(総論編)」ver. 0.1 を用意して、取り上げるべき項目の整理を試みた。

- ・疫学
- ・高齢者の定義
- ・高齢がん患者の特徴
- ・高齢がん患者医療の現状
- ・高齢がん患者診療の考え方(余命、意思決定能力、治療目的と患者の価値観、有害事象リスクの評価)
- ・老年症候群
- ・高齢者機能評価
- ・意思決定支援(アドバンス・ケア・プランニング)
- ・介護保険などの社会保障制度
- ・資源の配分(医療費や治療の手控え)

D. 考察

本研究班の目的は、高齢者がん診療指針策

定に必要な基盤を整備することである。その目的を達成するために、上記 5 つのプロジェクトを立て、研究を推進している。

・まず、日本の老年腫瘍学の教育・研究、高齢者のがん診療の現状を知る必要がある。残念ながら、アンケート調査によれば、老年腫瘍学はもちろん老年医学でさえ、医学部や医学研究科における系統だった教育や研究、がん診療連携拠点病院における高齢者の診療が十分でないことが分かった。戦後の団塊の世代が、あと 4-5 年で後期高齢者となるなか、これからもがん患者は増加の一途をたどると考えられる。中長期的にみても、日本人の寿命は延び続けていく可能性が高い。高齢がん患者は、がんだけでなく、加齢に伴う心身の低下の他に循環器系、代謝性疾患をはじめ多くの併存症を持っており、老年腫瘍学をささえる老年医学の教育・研究・診療も重要である。

第 3 期がん対策推進基本計画、分野別施策ではライフステージに応じたがん対策が取り上げられており、系統だった老年医学・腫瘍学の教育・研究・診療は重要であり、遅ればせながらも医学部、医学研究科での教育・研究とがん診療連携拠点病院での診療の充実と専門医療人の育成を進めていく必要がある。

・高齢者のがん診療にあたっては臨床研究がほとんどなされてこなかったこともあり、エビデンスが少なく、患者を前に医療者は経験則から診療方針を立てている現状がある。そういった中、エビデンスが少なく「ガイドライン」としてまとめるには、不十分

だが、現在まで蓄積された高齢者がん医療に関する情報を review、解析してまとめ、公表することは、意義のあることである。そういった目的で、がん診療の専門医に依頼し、高齢者という切り口から Q&A の形でまとめ、総論部分は完成した。現在各がん種の治療（各論）について作成中であり、2019 年度中には完成予定である。これらは、次のステップとして診療ガイドラインを作成するときの有用な情報源となるはずである。

・高齢者のがんの診療指針を策定し、医療として普及させていくためには、がん対策推進基本計画にあるガイドラインの作成が重要な課題である。全国民が共有しやすい内容として、診療の考え方（総論）をまとめ、適切なプロセスを経て普及を推進する。

現在、高齢者のがん診療における「身体機能評価、精神機能評価、社会的問題の評価、意思決定支援、老年症候群の扱い等」の総論的事項の整理を進めており、今後エキスパートコンセンサスを得て、診療の考え方に関する情報を集約して行政等に提案し、幅広い意見交換のための土台とする。本成果物は、各がん関連学会が作成している診療ガイドラインのなかで、高齢者のがん診療についての項だけてを促し、その作成にあたって参考となるものである。すなわち診療ガイドライン作成のためのガイド（指針）となるものである。

・最後に、本研究により基盤が整備され、診療ガイドラインが作成されることになるが、ガイドラインの作成・周知・改訂を継続的に実施していくためには、組織がいる。しかも、

高齢者のがん診療は多領域・多職種がかかわる集学医療、その実践にあたってはチーム医療が行われる。したがって、求められる組織は、多領域・多職種からなり、さらに患者団体や支援団体の参加も必要である。そのため高齢者がん医療協議会（コンソーシアム）を設立した。本協議会は、本研究班と連携し、高齢者がん医療の診療指針の策定に寄与するばかりでなく、老年腫瘍学の専門家が日本にはほとんどいない中、人材育成のための教育や研究にも寄与するものと発展させねばならない。

研究により得られた成果の今後の活用・提供：老年医学・腫瘍学の教育・研究・診療が大学医学部・研究科、がん診療に携わる病院で積極的な取り組み行われるように、文部科学省、厚生労働省に働きかけていく。すなわち、老年腫瘍学の専門家がほとんどいない現状を鑑み、継続的な育成事業を展開していく。

「高齢者がん医療 Q&A」は各論が今年度中に完成し、ホームページに掲載するとともに、ハンドブックあるいはテキストブックとしてまとめる。これら、総論・各論の Q&A の中から、ガイドラインと使用できるものは利用する。高齢者がん診療指針の枠組みが固まれば、この指針を各がん関連学会に提示し、各関連学会のガイドライン委員会の中で高齢者のがん診療について議論し、診療ガイドラインとして取り上げられるように依頼していく。これら一連の事業を協議会が支援していく体制を確立する。

E. 結論

高齢者がん医療に関し、教育・研究・診療において系統だった対策は十分でなく、専門家が極めて少ない。高齢者がん医療協議会（コンソーシアム）と本研究班が連携し、本邦に適した高齢者がん診療の考え方をまとめ、幅広い議論を行い、関連する学会やアカデミア等においても基盤整備を導入推進していくことが重要である。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

論文発表

1. 山内芳也, 長島文夫, 他. 【高齢者における代謝栄養管理】 高齢がん患者の機能評価. 外科と代謝・栄養. 2018;52(1):17-22.
2. 小林敬明, 長島文夫, 他. 【高齢者医療ハンドブック-高齢者医療におけるダイバーシティへの対応】(第 VIII 章)高齢者のがん診療～実地医家の視点から～ 胃がん・大腸がん. 内科. 2018;121(4):887-91.
3. 前野聡子, 長島文夫. 【診断と治療の ABC[137] フレイル】(第 3 章)各種病態とフレイル がんとフレイル. 最新医学. 2018;別冊(フレイル):107-12.
4. 前野聡子, 長島文夫. 【老年医学(上)-基礎・臨床研究の最新動向-】 老年医学領域の高度医療・未来医療 高齢者のがん医療の進歩. 日本臨床. 2018;76(増刊 5 老年医学(上)):255-9.
5. 黒澤貴志, 長島文夫, 他. 【後期高齢者へのがん薬物治療】 後期高齢者に対するがん薬物治療

の問題点. 臨床腫瘍プラクティス.
2018;14(4):241-8.

6. 長島文夫, 他. 膵・胆道癌高齢患者に対する積極的抗癌治療. 膵・胆道癌 Frontier. 2018;7(2):64-71.
7. 前野聡子, 長島文夫, 他. 高齢者に対する大腸癌化学療法の実際. 消化器・肝臓内科. 2019;5(1):17-23.
8. 前野聡子, 長島文夫. 高齢がん診療のあり方. Geriatric Neurosurgery. 2019 ; 31 : 19-22.

学会発表

1. 長島文夫. 高齢者のがん患者を診療するにあたっての考え方 (必要な情報). 第 60 回日本老年医学会学術集会シンポジウム 22, 2018 年 6 月 16 日, 京都.
2. 長島文夫, 古瀬純司. Geriatric Oncology in Japan. 第 60 回日本臨床腫瘍学会学術集会 JSMO-SIOG シンポジウム, 2018 年 7 月 19 日, 神戸.
3. 北村浩, 長島文夫, 他. Gemcitabine base の化学療法を行った高齢者膵がんにおける有害事象と高齢者機能評価について. 第 3 回日本がんサポーターブケア学会 2018 年 8 月 31 日, 福岡.
4. 前野聡子, 長島文夫, 他. 海外高齢者がん診療ガイドライン活用の工夫 - 認知症をもつがん患者の実地症例から - 第 3 回日本がんサポーターブケア学会 2018 年 8 月 31 日, 福岡.
5. 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司 他. Cancer-Specific Geriatric Assessment を用

いた高齢者膵癌化学療法の第Ⅱ相試験, ポスター, 日本癌治療学会, 2018 年 10 月 18 日, 横浜.

市民公開講座

6. 長島文夫. “高齢者に抗がん剤は効果なし”は本当なのか?. 日本臨床腫瘍学会市民公開講座, 2018 年 6 月 24 日, 大阪.
7. 長島文夫. 本当!? 「高齢者に抗がん剤は“効果なし?”」, ちゃやまちキャンサーフォーラム 2018, 2018 年 10 月 27 日, 大阪
8. 長島文夫. 高齢者のがん治療健康長寿講演会 (三鷹市老人クラブ連合会), 2019 年 2 月 5 日, 三鷹.
9. 長島文夫. みんなで支えるがん医療「超高齢社会とがん, 杏林 CCRC 研究所の取り組み」, 杏林 CCRC フォーラム公開講演会, 2019 年 2 月 23 日, 三鷹.

人材育成のための勉強会等

1. 長島文夫, 水谷友紀, 小川朝生, 濱口哲弥, 他. 「高齢者研究のエンドポイントを考える」, 平成 30 年度 JCOG 高齢者研究委員会勉強会, 2019 年 2 月 25 日, 東京.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。